

Tsunemi Y, Saeki H, Nakamura K, Sekiya T, Hirai K, Fujita H, Asano N, Tanida Y, Kakinuma T, Wakugawa M, Torii H, Tamaki K	Eotaxin gene single nucleotide polymorphisms in the promoter and exon regions are not associated with susceptibility to atopic dermatitis, but two of them in the promoter region are associated with IgE levels in patients with atopic dermatitis	J Dermatol Sci	29	222-228	2002
Kobayashi N, Taguchi-Nakamura H, Goto M, Nakamura T, Nakamura K, Sugiura W, Iwamoto A, Kitamura Y	Polymorphisms and haplotypes of the CD209L gene and their association with the clinical course of HIV-positive Japanese patients	Jpn J Infect Dis	55	131-133	2002
Kakinuma T, Nakamura K, Wakugawa M, Yano S, Saeki H, Torii H, Komine M, Asahina A, Tamaki K.	IL-4, but not IL-13, modulate TARC (thymus and activation regulated chemokine) / CCL17 and IP-10 (Interferon -induced protein of 10kDa)/ CXCL10 released by TNF-alpha AND IFN-gamma IN HaCaT CELL LINE	Cytokine	20(1)	1-6	2002
Tsunemi Y, Saeki H, Nakamura K, Sekiya T, Hirai K, Fujita H, Asano N, Kishimoto M, Tanida Y, Kakinuma T, Mitsui H, Tada Y, Wakugawa M, Torii H, Komine M, Asahina A, Tamaki K	Interleukin-12 p40 gene (IL12B) 3'-untranslated region polymorphism is associated with susceptibility to atopic dermatitis and psoriasis vulgaris	J Dermatol Sci	30(2)	161-166	2002
Zheng X, Nakamura K, Tojo M, Oyama N, Nishibu A, Satoh M, Kakinuma T, Wakugawa M, Tamaki K, Kaneko F	TGF-beta(1)-mediated regulation of thymus and activation-regulated chemokine (TARC/CCL17) synthesis and secretion by HaCaT cells co-stimulated with TNF-alpha and IFN-gamma	J Dermatol Sci	30(2)	154-160	2002
Tsunemi Y, Saeki H, Nakamura K, Sekiya T, Hirai K, Kakinuma T, Fujita H, Asano N, Tanida Y, Wakugawa M, Torii H, Tamaki K	Interleukin-13 gene polymorphism G4257A is associated with atopic dermatitis in Japanese patients	J Dermatol Sci	30(2)	100-107	2002
Tsunemi Y, Saeki H, Nakamura K, Sekiya T, Hirai K, Fujita H, Asano N, Tanida Y, Kakinuma T, Wakugawa M, Torii H, Tamaki K	Eotaxin gene single nucleotide polymorphisms in the promoter and exon regions are not associated with susceptibility to atopic dermatitis, but two of them in the promoter region are associated with serum IgE levels in patients with atopic dermatitis	J Dermatol Sci	29(3)	222	2002
Lew W, Chang SK, Kwahck H, Tada Y, Nakamura K, Tamaki K	Serum monocyte chemoattractant protein-1 is elevated in lepromatous leprosy patients with high bacterial indices	Int J Lepr Other Mycobact Dis	70(2)	129-131	2002
Sugaya M, Nakamura K, Watanabe T, Asahina A, Yasaka N, Koyama Y, Kusubata M, Ushiki Y, Kimura K, Morooka A, Irie S, Yokoyama T, Inoue K, Itohara S, Tamaki K	Expression of cellular prion-related protein by murine Langerhans cells and keratinocytes	J Dermatol Sci	28(2)	126-134	2002

V. 第1回班会議プログラム

厚生労働科学研究（特定疾患対策事業）
ペーチェット病に関する調査研究
平成14年度第1回研究会議

日時：平成14年9月20日（金）14：30～17：30
9月21日（土）9：30～12：10
場所：福島県立医科大学医学部大会議室（医科大学管理棟3階）
〒960-1295 福島市光が丘1

9月20日（金曜日）

14：30

主任研究者挨拶 福島県立医科大学医学部皮膚科教授 金子 史男
厚生労働省健康局疾病対策課課長 御挨拶

座長：金子 史男

14：40

「ペーチェット病における *S. sanguis* と *herpes virus* の役割」
金子史男、東條理子（福島県立医科大学皮膚科）高橋和郎（同微生物学）
磯貝恵美子（北海道医療大学歯学部口腔衛生学）

14：55

「各種口腔レンサ球菌の HSP60 遺伝子より推察されるアミノ酸配列の相同性について」
小熊恵二、横田憲治、林松男、阪口義彦、関 鋭（岡山大学大学院医歯学総合研究科病原細菌学）磯貝恵美子（北海道医療大学歯学部口腔衛生学）磯貝浩（札幌医科大学）

15：10

「ペーチェット病における抗菌ペプチドの機能と応用の可能性」
磯貝恵美子、奥村一彦、廣瀬公治（北海道医療大学）、平田陸正（まつぞの薬局自然免疫研究所）、磯貝浩（札幌医科大学）大野重昭、小竹聡（北海道大学）小熊恵二（岡山大学）東條理子、金子史男（福島県立医科大学皮膚科）

15：25

「ペーチェット病におけるウイルス感染の病因的意義についての研究」
岩月啓氏、山崎修（岡山大学大学院医歯学総合研究科 皮膚・粘膜・結合織学）

座長：猪子 英俊

15：40

「ベーチェット病関連遺伝子のゲノムワイドなマッピングのための戦略について」

猪子英俊（東海大学医学部分子生命科学）

15：55

「全染色体を対象としたゲノムワイドなマイクロサテライトマッピングによるベーチェット病の原因遺伝子の検索」

水木信久、西田朋美（横浜市立大学医学部眼科）

16：10

「ベーチェット病患者における IL12 と IL12R β 2 の遺伝子多型解析」

柳堀浩克、東條理子、金子史男（福島県立医科大学皮膚科）

休憩 16：20

座長：小熊 恵二

16：30

「皮膚抗原提示細胞としてのランゲルハンス細胞」

中村晃一郎、東條理子、金子史男（福島県立医科大学皮膚科）

16：45

「樹状細胞を用いた Th2-シフトによる免疫制御法開発」

菊地一博、柳川芳毅、岩渕和也、小野江和則（北海道大学遺伝子病制御研究所免疫応答分野）

17：00

「自己免疫性網膜ぶどう膜炎におけるケモカインの果たす役割」

佐野 出、南場研一、北明大州、小竹聡、大野重昭、岩渕和也、（北海道大学大学院医学研究科視覚器病学分野）

17：15

「ベーチェット病の病態形成における Th 1 細胞と Th 1 細胞特異的転写因子 T β xk の役割」

鈴木登（聖マリアンナ医科大学免疫学病害動物学）永渕裕子（同難病治療研究センター）

9月21日（土曜日）

座長：中村晃一郎

9：30

「HLA-B51 発現トランスジェニックマウスを用いたベーチェット病疾患モデル作成の試み」

水木信久、西田朋美（横浜市立大学医学部眼科）

9：45

「遺伝子改変技術による疾患モデル動物の開発」

小林和人（福島県立医科大学生体情報伝達研究所生体機能部門）

10：00

「ベーチェット病におけるMICAを介した免疫応答の解析」

桑名正隆（慶應義塾大学医学部先端医科学研究所）

10:15

「ベーチェット病のサイトカインの動態および新たな治療戦略の試み」

石ヶ坪良明、岳野光洋、三角緑（横浜市立大学第一内科）中村聡、水木信久（同眼科）

大野重昭（北海道大学大学院医学研究科視覚器病学分野）

座長：大野 重昭

10：30

「ベーチェット病の新しい治療についての研究」

大野重昭（北海道大学大学院医学研究科視覚器病学分野）

10：45

「ベーチェット病の眼症に対する治療法」

川島秀俊（東京大学大学院医学系研究科感覚運動機能）

11：00

「ベーチェット病におけるシクロスポリンの治療効果と遺伝子多型」

太田正穂（信州大学医学部法医学）勝山善彦（同薬剤部）西田朋美、水木信久（横浜市立大学医学部眼科）

11 : 15

「ベーチェット病の疫学的調査に関する研究」

小竹聡（北海道大学大学院医学研究科視覚器病学分野）

11 : 30

「ベーチェット病の疫学と QOL 調査」

稲葉裕（順天堂大学医学部衛生学）

11 : 45

「眼疾患特異的 QOL 尺度（VFQ-25）によるベーチェット病患者の QOL 測定」

福原俊一（京都大学医学研究科健康解析学）

12 : 00

総合討論

12 : 10

閉会挨拶 金子 史男

13 : 00

ベーチェット病友の会勉強会

VI. 第2回班会議プログラム

厚生労働科学研究（特定疾患対策事業）
ベーチェット病に関する調査研究
平成14年度第2回研究会議（総会）

日時：平成15年度1月17日（金）14：00～18：00

1月18日（土）9：00～12：00

場所：福島県立医科大学同窓会館「光が丘会館」大会議室
〒960-1295 福島市光が丘1

1月17日（金曜日）

14：00

主任研究者挨拶 福島県立医科大学医学部皮膚科教授 金子 史男
厚生労働省健康局疾病対策課課長 御挨拶

座長：金子 史男

14：10

「ベーチェット病の全国調査 ～疫学研究の倫理指針を考慮して～」
稲葉裕、黒沢美智子、松葉剛（順天堂大学医学部衛生学）

14：25

「眼疾患特異的 QOL 尺度（VFQ-25）によるベーチェット病患者の QOL 測定」
福原俊一、鈴嶋よしみ（京都大学医学研究科健康解析学）
森田智視（京都大学医学研究科疫学研究情報管理学）
小竹聡（北海道大学医学部眼科）

14：40

「患者由来口腔レンサ球菌の HSP60 遺伝子をもとに作製したペプチドの反応性
について」
小熊恵二、横田憲治、林松男、阪口義彦、関 鋭（岡山大学大学院医歯学総合研究科病
原細菌学）磯貝恵美子（北海道医療大学歯学部口腔衛生学）
山崎修、岩月啓氏（岡山大学大学院医歯学総合研究科皮膚・粘膜・結合織学）

14 : 55

「ペーチェット病患者口腔由来 *Streptococcus sanguis* の菌体成分によるブドウ膜炎誘導と CAP18 合成ペプチドによる発症抑制に関する研究」

磯貝恵美子（北海道医療大学歯学部口腔衛生学）、磯貝浩（札幌医科大学医学部動物実験施設）平田陸正（まつぞの薬局自然免疫研究所）、松尾幸毅（産業技術総合研究所）
小熊恵二（岡山大学医学部細菌学）大野重昭、小竹聡（北海道大学大学院医学研究科視覚器病学分野）東條理子、金子史男（福島県立医科大学皮膚科）

休憩 15 : 10

15 : 20

「ペーチェット病におけるウイルス感染の病因的意義についての研究」

岩月啓氏、山崎修、森実真、瀬津名美子、大野貴司（岡山大学大学院医歯学総合研究科皮膚・粘膜・結合織学）

15 : 35

「ペーチェット病における BES-1 蛋白由来のペプチドに関する研究」

小林和人（福島県立医科大学生体情報伝達研究所生体機能部門）
柳堀浩克、東條理子、中村晃一郎（福島県立医科大学皮膚科）
磯貝恵美子（北海道医療大学歯学部口腔衛生学）

座長：猪子 英俊

15 : 50

「トルコ人のペーチェット病患者におけるゲノムワイドな遺伝子マッピング」

猪子英俊（東海大学医学部分子生命科学 2）、竹本裕子、南場研一（北海道大学医学部視覚器病学）水木信久（横浜市立大学医学部眼科）大野重昭（北海道大学医学部視覚器病学）

16 : 05

「ペーチェット病はどのようなルートで日本にもたらされたか」

竹本裕子、南場研一、大野重昭（北海道大学医学部視覚器病学）水木信久（横浜市立大学医学部眼科）、猪子英俊（東海大学医学部分子生命科学 2）

16 : 20

「ゲノムワイドなマイクロサテライトマッピングによるベーチェット病の原因遺伝子の検索およびベーチェット病モデルマウス作製の可能性に関する研究」

水木信久、西田朋美、滝山直昭、尾本周、山根敬浩、伊藤典彦（横浜市立大学医学部眼科）竹本裕子、大野重昭（北海道大学大学院医学研究科視覚器病学）岡 晃、田宮元、猪子英俊（東海大学医学部分子生命科学遺伝情報部門）

16 : 35

「ベーチェット病における MICA 多型性領域を認識する HLA-B51 拘束性 T 細胞の解析」

桑名正隆（慶応義塾大学医学部先端医科学研究所）安岡秀剛（同内科）

16 : 50

「Behcet 病における IL12p40 と IL12receptor $\beta 2$ の遺伝子学的検討」

金子史男、柳堀浩克、井上智子、東條理子、中村晃一郎（福島県立医科大学皮膚科）

座長：小熊 恵二

17 : 00

「細菌由来の CpG モチーフを有する DNA (CpG DNA) に対するベーチェット病患者単核球の反応性」

佐藤由紀夫、斉藤広幸、折笠博史、小林浩子（班友：福島県立医科大学内科学第二講座）

17 : 15

「アスタキサンチンの抗炎症作用に関する研究」

大野重昭、小竹聡、大神一浩、白取謙治、Ilieva Iliyana（北海道大学大学院医学研究科視覚器病学分野）西田朋美、水木信久（横浜市立大学医学部眼科）

17 : 30

「ベーチェット病の病態形成における Th 1 細胞の役割」

鈴木登（聖マリアンナ医科大学免疫学病害動物学）

17 : 45

「皮膚抗原提示細胞としてのランゲルハンス細胞」

中村晃一郎、東條理子、金子史男（福島県立医科大学皮膚科）多田弥生、朝比奈昭彦、玉置邦彦（東京大学大学院医学系研究科皮膚科）

1月18日(土曜日)

座長：石ヶ坪 良明

9:00

「Heme Oxygenase(HO)-1 誘導による炎症制御」

岳野光洋、武田由希子(横浜市立大学医学部第一内科)、長濱清隆、青木一郎(横浜市立大学医学部第二病理学) 石ヶ坪良明(横浜市立大学医学部第一内科)

9:15

「ヒト MCP-1 トランスジェニックマウスにおける実験的ぶどう膜炎発症増強と LPS 高感受性」

岩渕和也(北海道大学遺伝子病制御研究所免疫応答分野)、北明大州、南場研一、佐藤出、小竹聡、大野重昭(北海道大学大学院医学研究科視覚器病学分野) 小野江和則(北海道大学遺伝子病制御研究所免疫応答分野)

9:30

「ラット実験的ぶどう膜炎に対する徐放性副腎皮質ステロイド製剤(SURODEX®)の有効性の評価」

兒玉益広、川島秀俊、沼賀二郎、蕪城俊克、吉田淳、大鹿哲郎、藤野雄次郎(東京大学)、Wu GS、Rao NA(Doheny Eye Institute)

9:45

「ベーチェット病患者における抗 TNF α 抗体療法の末梢血単核球によるサイトカイン産生動態への影響」

三角緑、岳野光洋(横浜市立大学第一内科) 水木信久(横浜市立大学眼科) 大野重昭(北海道大学大眼科) 石ヶ坪良明(横浜市立大学第一内科)

座長：大野 重昭

10:00

「ベーチェット病におけるシクロスポリンの治療効果と ABC トランスポーター遺伝子多型」

太田正穂(信州大学医学部法医学) 勝山善彦(信州大学薬剤部) 西田朋美、水木信久(横浜市立大学医学部眼科)

10 : 15

「抗 TNF α モノクローナル抗体療法～臨床経過および副作用についての詳報」

秋山和英、蕪城俊克、井上賢治、山田秀之、福嶋はるみ、渋井洋文、沼賀二郎、藤野雄次郎、川島秀俊（東京大学）

10 : 30

「ベーチェット病の併発白内障に対する手術成績」

本山祐大、蕪城俊克、平岡美依奈、沼賀二郎、藤野雄次郎、川島秀俊（東京大学）

10 : 45

「顆粒球吸着カラムによるベーチェット病の治療」

大野重昭、南場研一、北明大州、村松昌裕、白取謙治、大神一浩、小竹聡（北海道大学大学院医学研究科視覚器病学分野）

11 : 00

話題提供

～自然免疫における補体レクチン系路の役割について～

藤田禎三（班友：福島県立医科大学大学生化学第二）

11 : 15

総合討論

11 : 25

閉会挨拶 金子 史男

14 : 00

ベーチェット病友の会勉強会